メインスローガン

「創 造」 形式にとらわれず 新しい活動を創ろう!

「参 加」 労働組合はみんなのもの だからみんなで参加しよう!

「実 践」 言うだけでは何も変わらない 言ったからには実践しよう!

サブスローガン

◆新型コロナウイルス感染症による社会環境の変化に向き合い、新たな活動を展開しよう!

◆JR西労組の必要性を再認識し、みんなで安全と働きやすい環境を築き上げよう!

◆明るく・楽しく・元気良く! 共に支え合う仲間の輪を広げよう!

◆一人一役・全員主役! 全員参加でJR西労組運動を継承しよう!

全体質疑

コロナ禍での自粛ムードの緩和を

内田 教詞（京都地本）

●早い段階で持ち出し常任委員会などを開催し、中央本部内での仲間づくりを進めていただくと、より活動しやすい環境が作ることができるのではないか。

●お客様に利用をうながしている会社が自粛を続けているのは矛盾をしている。会社への働きかけを要請する。

●妥結している年間臨給の減額が当たり前になれば、春闘に対する組合員のモチベーションは上がらない。

●新しい生活様式を取り入れた活動はどうなるのか。

ユニオンカレッジの中で議論し、本部・各地本・総支部との意思統一をお願いする。

女性限定レクの開催は?

板井 航大（福岡地本）

●若手組合員の組合離れが進んでいる。興味を持ってもらうためのアドバイスをお願いしたい。

●女性組合員の活動の推進のために、女性限定のレクリエーションを開催してみてはどうか。

会社の情報先出しに困惑

柳生 庸（大阪地本）

●臨時のクレペリン検査で不合格の場合、定期検査から半年程度なら再試験をしなくても良いのではないか。

●ボーナス見直しについて、来年度の年間臨給は1・5ヵ月を下回ることはないのか。

●会社の情報先出しに対して、組合として厳しく伝えてほしい。

北陸新幹線敦賀延伸を急ぐ必要があるのか

磐田 諒介（金沢地本）

●北陸新幹線敦賀延伸について、人件費・資材費の高騰の中、トンネルの追加工事など、費用を増やしてまで開業を急ぐ必要があるのか。

●健康診断について、血液検査の周期の見直しも含めて検討してはどうか。

一般組合員目線を大切に

松本 憲亮（大阪地本）

●新在家派出のエリア手当の早急の改善を求める。

●健康診断予約に不公平感。25日以降の予約の変更をお願いしたい。

インフルエンザの予防接種も早い段階での周知を要請する。

●情宣活動について、LINE導入で、素早い情報の展開が可能になったが、もう少し組合員目線での活動を展開してほしい。

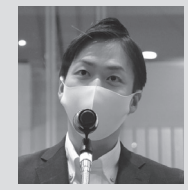
●青女世代でない組合員も増加し、運転所の分会は休会の現状である。年齢制限の引上げも一つの方法だが、入社年数で期間を決めるなど議論が必要である。

在宅勤務による電気代手当の支給を

濱口 真大（本社総支部・大阪鉄道病院）

●コロナ禍の中、5割の社員が在宅勤務を行っている。

電話代は申告により支給されるが、電気代についても、手当の支給を要請していただきたい。


内田委員

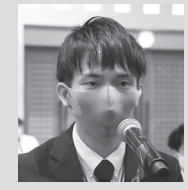
柳生委員

磐田委員

板井委員

松本委員

濱口委員


高渕委員

中原委員

制限を設けてでも副業の解禁をお願いする

高渕 翔大（岡山地本）

●来年以降、ボーナスが0回答なら相当生活が厳しくなる。ろうきんでの融資も金利の心配がある。

厳しい制限を設けてでも副業の解禁をお願いする。

コロナ禍の活動のあり方について周知をお願いする

中原 亮祐（大阪地本）

●コロナ禍の中での活動についての考え方や感染対策を、掲示等を使い、広く周知をしていただきたい。

参加したくない分会への対応はどうするべきか。お示しいただきたい。

●執行部の中間答弁

コロナ禍で得た新しいやり方も採り入れながら

鶴石委員長

◆コロナ以後の組合活動は、行事に合わせて、元に戻すものと、コロナ禍で得た新しいやり方を使い分けていく。

◆コロナ禍では、きちんとした感染対策をお願いする。

◆会社の経営状況の通知は会社がやるべき事。働きかけはきちんと行う。

◆常任委員会の繋がり強化について、横の繋がりも意識すべきと反省している。

◆自粛ムードの緩和について、ガイドラインなどを作成し解禁するよう働きかける。

◆年間臨給について、決まったものが変わるという状況が一番危険である。

◆病院勤務のような厳しい最前線の現場に光を当てて、春闘でも要求すべきだという声も上がっている。

◆ボランティアは県内程度しか受け入れていない。

◆組合活動に参加すれば意識も変わる。一歩目を踏み出せるよう、背中を押してあげてほしい。

◆広島鉄道病院について、広島地本と本部で情報共有しながら協力していきたい。

◆JR西労組のHPから「すすめる会」の各議員のHPに飛ぶようにリンクを貼っている。パンフレットについてもご意見を頂けたらと思う。

◆新賃金制度の見直しは、会社も歩みを止めないといっている。

◆まずは、ろうきんでの返済の見直しなど、家計を見直す取り組みも参考にしていただきたい。

◆青女と基本組織の役員兼務について、中央本部青年女性委員会も同じ認識である。

◆来年以降の年間臨給などについては、春闘でしっかりと交渉していく。

◆会社の情報先出しに対しては、議論をしている。

◆福知山地本の決意表明と受け止めている。しっかりと組合員をフォローしていく。

◆地本の行事に組織内議員も参加し、政治の距離を縮めて頂きたい。

◆在宅勤務に伴う電気代の補助は、コロナ禍で出た新たな問題であり、今後の課題と認識している。

◆新在家派出エリア手当は今後も要求していく。

◆健康診断・予防接種について、課題提起をしていく。

◆今後も素早く、皆さんのニーズに合った内容を発信していく。LINEの新たな登録を要請する。

◆結婚休暇について、会社に事前に周知すると確認を取っている。買い上げの制度を作ってしまうと使わない方が多くなってしまう。

◆ろうきんや共済の見直しは、可処分所得を増やすことを目的に紹介をしている。

◆人間ドックも含めて、会社に働きかけを行っていく。

◆新入社員をバラバラに配属することは、同期同士のふれあう機会を奪ってしまう可能性もある。

◆女性限定レクよりも、誰もが参加しやすい内容を検討。

◆中バス会社の年間臨給減額は、ボーナスにまで手を付けると、社員の心が離れていくと会社も認識をしている。

◆行事に参加された方から組合員に伝えていただきたい。また、強制的に参加させる必要はない。ただ、やらないことが当たり前にならないよう注意してほしい。

安全の壁高いクレペリン

大鍋事務長

◆クレペリンについて、疑問を感じる気持ちも理解するが、臨時検査と定期検査の検査項目に違いがあり、安全に関する部分なのでハードルが高い。

安全な公共交通機関を担えるのか

川原業務部長

◆一時帰休やボーナスの減額も労働組合が説明してきた。会社の経営状況の説明については、会社に強く要請している。

◆経営状況は厳しいが、コロナ禍の中、病院で苦労している組合員に報いるため必要な手当ては求めていく。

◆LGBTの制度化は、情報管理や管理職の教育など、これからの対応が大切である。よい方法があれば教えて頂きたい。

◆会社は、副業を含めた労働管理の責任が伴う。管理の仕組みも含め、安全を軸に公共交通機関を担えるのか。ここを整理しない限り厳しい。

◆クレペリンについて、毎年要求しているが、会社としてはあえて2回という考え方。工務系統も検査に多く落ちている。JR西日本全体の問題として取り組んでいく。

◆ボーナス見直しについて、今後諸課題でもしっかりと議論をしていく。

◆会社も新入社員採用は止めないと言っている。一方で機械化や装置化も進めながら筋肉質な経営を目指していく。

◆経営環境が良くなればこれからもベースアップを求めていく。

◆会社は、在宅勤務を増やし、テレワーク端末も追加購入する。在宅勤務に伴う電気代の補助やテレワークを工務系統にも広げることを要求していく。

◆健康診断、インフルエンザの予防接種について、今後会社ときちんと議論をしていく。

◆雇用契約を結び労働の対価を払うことが副業だと認識している。今後の交渉で議論する場を設けている。業務速報を見ていただきご意見を頂きたい。

悩んで考えることが青女の力に

白壁副執行委員長

◆どのように活動を展開するか、悩んで考えたことが青女の皆さんの力になっていく。労働組合は何のためにあるのか、原点に返って考えてもらいたい。職場の問題点・課題を青女目線で見つけてほしい。

労働組合があるので労金や共済など助け合いの仕組みがある。仲間づくりだけではなく、青女のネットワークを利用して活動を展開してほしい。

◆青女の年代は青女の役員を優先してもらいたい。基本組織に青女が登用されそうなときは、青女としても戦ってほしい。

◆労働組合があるから理不尽なことが起きない。

◆署名について、労使関係ではない「国から補助」の要請も、会社の経営改善のために、労働組合としてもできることはやる必要がある。

◆グループにもコロナウイルスの影響はある。日頃から意識をして助け合うことを実践してほしい。

◆組合費について、JR西労組の財政状況は、固定費が高い。剰余金は1ヶ月分の組合費でしかない。今後を見据えて議論をしていかなければならない。

◆青女の人数が減ってきたのであれば、人数に合わせた活動をしていかなければならない。

◆組織内議員がいないと大臣などに要請に行くことができない。

敦賀延伸の進捗状況の明言を

上村中央執行委員長

◆北陸新幹線敦賀延伸について、与党のPTの中で2~3年は難しいとの声が上がった。

JR連合としては、進捗状況の明言を求めていく。また、部分開業を認めないことも併せて要求していく。

議会見学を政治理解の一助に

川原政治部長

◆青女の活動は、将来のJR西労組運動を作り上げていくためにも、仲間づくりを工夫しながら行ってほしい。

◆交通政策をすすめる会について、議員の方のSNSのQRコードもつけている。

◆大橋選挙の際は、青年女性委員会として活動をしていただき感謝する。議会見学などを進めていくことで、組織内議員についても理解いただけると考える。

国会議員懇談会や議員フォーラムの方は、固定資産税の減免などコロナ禍においても要請をしていただいている。

◆情宣活動について、情宣の方法も含め分かりやすい内容を発信していく。

川原業務部長

上村中央執行委員長

白壁副執行委員長

川原政治部長

労働組合の必要性を考えさせられ 労働組合の価値が際立った1年

大鍋事務長 総括答弁

18名から39項目に渡って質疑をいただき、皆さんの想いを聞かせて頂いた。また、この1年は新型コロナウイルスにより、これまでにない苦境の中での活動となったが、様々な場面で皆さんの支えをいただいた事に感謝申し上げる。

安全について

私達の安全に対する取り組みの原点である福知山線列車脱線事故から15年が過ぎ、様々な安全対策がなされてきた。しかしながら、お客様の命を脅かす事象や労働災害は無くなってはいない。ルールや設備が出来た背景を知り、納得した上で業務に臨んで頂きたい。そのためにも、私達がルールなどを労働者の目線で正していくことが必要だと考える。

組織について

コロナ禍により、活動が制限され、労働組合の必要性とは何かを考えさせられた1年だった。また、組合員の雇用と生活を守る、労働環境を改善するという点において、労働組合の価値が際立った1年でもあった。JR発足後、初めての大赤字が見込まれる中、雇用を死守し、一定の賃金が支給され、環境改善を要求し、実現させている。それが、JR西労組である。私達青女世代も、真に組合員のための活動を継承し、これからも幾度となく訪れる苦難を乗り越えられるJR西労組を目指そう。

青年女性委員会活動について

コロナウイルスの影響を受け、青年女性委員会の最大の目的である「仲間づくり」の活動が出来ず、もどかしい思いをしてきた。その分これまでの「仲間づくり」の活動がいかに大切だったのかを再認識する事となった。

私自身この青女の活動を経て、JR西労組だけでなく、グループ労組、JR連合のたくさんの仲間と出会い、刺激を受けながら、成長をしてきた。大きな変化は不安なものだが、その不安を払拭する1番の方法は仲間との会話である。このコロナウイルスによる日常生活の変貌を受け入れ、適応し、新たな活動を創り上げていく、その力が私たちには確実にある。苦しいときに助け合える、また、様々な想いを分かち合える青年女性委員会活動を今後も創り上げていく。この苦しい難局を乗り越え、みんなで一致団結し、充実した未来を切り拓いていこう。